

令和2年 山形県立小国高等学校 学校評価書(分掌) (自己評価・学校関係者評価)

校訓	「自律・忍耐・向上」
学校教育目標	「挑め、ともに！」 1 地元に着と誇りを持ち、地元を分厚く支援できる人材を育成する。 2 主体的な社会参加を通じて、多様性を認め、協働できる人材を育成する。 3 豊かな心と健全な体を持ち、新たな価値を創造できる人材を育成する。
育てたい7つの力	1 認める力 「受け入れる・聞く・メモする」 2 伝える力 「言葉で伝える・文章で伝える・プレゼンする」 3 つながる力 「仲間とつながる・地域とつながる・考えと考えをつなぐ」 4 行動する力 「やってみる・挑戦する・学びに向かう」 5 考える力 「論理的思考力・批判的思考力・課題解決力」 6 見つける力 「課題を見つける・強みを見つける・新たな価値を見つける」 7 絶えず続ける力「粘り強く学習する・あきらめない・感情をコントロール」

重点目標	重点取組	分掌	具体的方策	評価指標
1 主体的・協働的な学習を通してキャリア教育の推進	① 地域との協働による高校教育改革推進事業を通し、魅力ある教育課程を編成する。	教務・キャリア課	○教育課程の改訂を見据え、現在行われている教育活動を整理・統合する。	本校の特色や魅力化が図られた教育課程を編成できたか。
	② 「7つの力」の育成を意識した授業改善を進める。		○シラバスを活用し、生徒と教員が共通の目標のもとで学習活動を進められるようにするとともに、生徒自身による学習活動の振り返りと授業評価を併用することで、生徒の実態を把握し、授業改善につなげる。 ○定期的に「白い森入研修」を行い、教員の指導力の向上を図る。	シラバスの活用してPDCAサイクルを回すことができたか。 ねらいをもって研修を実施できたか。
	③ 地域や企業・大学等との連携による体験的活動を充実させる。		○白い森未来探究学や長期インターンシップ、山形大学工学部での研究活動など、現在行われている取り組みを更に充実させるとともに、新たな協働関係の構築を図る。	今の協働関係を整理し、生徒のやりたいに応えられる体制を構築できたか。
	④ 進路の実現を目指し、意欲的・計画的に学習する姿勢を育てる。		○3年間を見通した「白い森入育成プログラム」に基づき、各学年の発達段階に合わせた学びの機会を設け、個々の希望や実情に合った取り組みを行う。	3年間の流れを生徒・保護者・職員ともに理解し、進路実現に向けて必要な手立てができたか。
	⑤ 図書館の積極的な活動を推進し、読書を通して豊かな心の醸成を図る。		○朝読書、校内読書感想文コンクール、読書会等の読書活動推進のための取り組みの効果を検証し、年間を通した朝読書活動の実施について検討する。	効果的に読書活動の機会を設けることができたか。
2 きめ細やかな生徒指導の充実	① 基本的な生活習慣の確立による心身の健康の自己管理能力の育成、特別支援体制の充実を図る。	生徒保健課	○悩みを抱える生徒への目配り・声掛けと、特別支援も含めて個に応じた迅速な対応ができる体制を維持する。 ○日常的に学校保健委員会の構成員と連携を密に図り、感染予防指導も含め、心身の自己管理能力と行動変容を育む保健指導を実施する。(保健室入室時の生活振り返りシート活用)	認知したものの対応率100%。 生徒の行動変容のために生活振り返りシートが活用できたか。
	② 規範意識を涵養する。		○高校生としての行動及びマナーを徹底する。	生徒自らはマナーについて話し合う機会を設けたか。
	③ 学校行事等への主体的な取り組みにより生徒一人ひとりの自己有用感を醸成する。		○協働する力や「気付き」の力を高める清掃指導を研究する。(清掃オリエンテーション・学年縦割り班編成) ○学校行事や全国高校小規模校サミットの生徒主体での企画・運営を行う。	取り組みの改善のための生徒が考える機会を設け、改善策が実行されたか。 どの取り組みにおいても、生徒の発案が1つ以上生かされたか。
	④ いじめのない学校を目指し、いじめ防止の対策を継続する。		○地域の様々な愛好団体・競技団体を生徒に紹介し、部活動に限らない課外の過ごし方の活性化・多様化を図る。 ○様々な場面で人を思いやる心の醸成に取り組むとともに、いじめの早期の発見と対応を図る。(いじめ防止グループ討議年1回・生徒アンケート年2回) ○新型コロナウイルスによる差別やいじめを防止するためにSCと連携しながら、互いを受容し助け合う雰囲気醸成を図る。	地域の様々な愛好団体・競技団体を生徒に紹介したか。 いじめ防止グループ討議を年1回、生徒アンケートを年2回、実施したか。 SCを8回以上実施したか。
3 安心・安全な学校づくり	① 学校・家庭・地域が一体となった活力ある協働関係を構築する。	総務広報課	○各種会議への参加を含め、地域行事や学校行事などで互いに協力しあう。	各種会議・行事などに参加できたか。家庭や地域と協働して行動できたか。
	② PTA活動を通して家庭・地域と連携を強化する。		○朝の挨拶運動(10月までの第3週)及び専門部(広報・校外研修・文化体育)の取り組みを継続し、学校行事などで積極的に関わる。	挨拶運動の参加率は70%以上になったか。専門部会は2回実施できたか。
	③ 広く教育活動成果を外部に広報する。		○学校紹介パンフレット(7月)、小国高校ジャーナル(9月)、よこね(3月)を発行し、学校ホームページは必要に応じて随時更新する。	広報紙を計画通り発行できたか。ホームページは週1回程度更新できたか。
	④ 危機管理体制を整備し、事故の防止に努める。		○一斉メール配信システムの全員登録により緊急連絡体制を整備し、毎月初めの学校安全の日には安全点検を徹底し環境整備に努める。	一斉メールは全員登録できたか。安全点検カード提出は100%になったか。
4 維持・発展と健康づくり	① 業務改善のための組織体制を整備し、適正なワークライフ・バランスに努める。	学校全体	○学校や教員等が担うべき業務についての適正化	精検等該当者の再検率100%
	② 休暇を取得しやすく、ストレスを和らげる環境整備を推進する。		○報・連・相等による学校職員間のコミュニケーションの促進	全職員年間年休取得5日 リフレッシュ特休該当職員の完全取得
	③ 教職員一人ひとりが働き方改革に対する意識を啓発する。		○管理職による勤務時間掌握の徹底	超過勤務月45時間・年間380時間

中間評価	中間進捗状況	評価	年度末達成状況	学校関係者評価 (令和3年2月26日) 自己評価に対する評価
—	各教科からの調査を経て、原案作成。今後、本校の目指す生徒像を意識し、魅力あるカリキュラムづくりを目指す。	A	10月職員会議及び学校運営協議会の承認を得て、具へ提出済。本校の魅力である総合的な探究の時間を軸とし、地域協働できる特色あるカリキュラムとなった。	・コロナ禍の中での制約が多い中、教員および関係する外部人材と協働しつつ工夫を重ね、概ね自己評価通りの成果を示していると言える。
— A	1学期のまとめとして、教科および学年の協力を経て、シラバスを有効活用できた。 年度初めにランドデザイン研修や東北工大の岡崎エミ先生よりオンラインも交えて新しい学びについての研修を実施できたのは大きかった。	A B	学期末の振り返りに有効活用できた。 スタートアップには必要不可欠だった。ICT活用研修など状況に応じて機会を設ける必要があった。	・今年度はコロナ感染予防の観点から実施が困難な行事もあったと思いますが、その中でも3者面談等、オンラインを活用し実施出来た事項もあり良かったと思います。今後、世の中の流れからもオンラインの活用が必須になってくると思いますので他の行事等にも展開できるように準備していただくとう良いと思います。
B	魅力化コーディネーターが入り、生徒を伴走する新しい立場に入った。また、担当者金を随時設けて、担当者の目線合わせの時間をとることができた。	A	コーディネーターや学習支援員のサポートもあり、伴走者してくれる大人が多く、授業や課題活動等において生徒のやりたいに寄り添っていた。大学教授とのミーティングも定期的に行い、柔軟に学びを積み重ねることができた。	・特色ある学習活動がしっかりとときめ細やかに行われていると思います。
B	科目選択説明を動画で渡し、1年三者面談をオンラインで実施し、コロナ禍でも必要な対話ができた。キャリアアップデイズや企業人面接、インターンシップなど、充実した内容で実施できたが、全体の流れを見直す必要がある。	A	科目選択説明を動画で渡し、1年三者面談をオンラインで実施し、コロナ禍でも必要な対話ができた。キャリアアップデイズや企業人面接、インターンシップなど、充実した内容で実施できたが、全体の流れを見直し、精選していく。	
A	一斉読書会(9/4)実施。コロナ禍でクラス単位での実施、かつ、1時間での実施だが、生徒は充実感を味わった。アンケートの意見を12月の読書会に活かす。また、「朝学習」「朝読書」への転換についても検討していく。	A	一斉読書会(9/4、1/18)実施。コロナ禍でクラス単位での実施、かつ、1時間での実施だが、生徒は充実感を味わい、読書を楽しむことができた。 来年度、「朝学習」「朝読書」を基本とし、柔軟に対応していくものとした。	
B	生徒の気になる様子や悩みには、認知したもの全てに対応できている。 保健室入室生徒を対象に生活振り返りシートを活用できている。	A	認知したものは全て対応した。 生徒の行動変容のために生活振り返りシートを活用できた。	・コロナ禍の中での制約やストレスが多い中、教員が東条かつ丁寧に生徒指導や心身の健康に対応する支援を行っていることがうかがわれる。概ね自己評価通りの成果を示していると言える。
B	一人一台IoT環境構築にあたり、全校集会などでネットモラルについて話し合う場を今後用意する予定である。大掃除前日、保健環境委員が掃除リーダーに呼びかけを行った。	A	生徒自らがマナーについて話し合う機会を設けることはできなかったが、全校集会での講話で考える機会を設けることができた。	・いじめは絶対にあってはならないと思います。事業の大小にかかわらず、早期発見・早期対応で生徒に安心感を与えてほしいと思います。すぐに相談しやすい体制をとっていただき、ありがたく思っています。
B	学校行事の多くがこれからであるが、生徒の発案を盛り込みながら計画である。 町教委より地域の様々な愛好団体・競技団体のリストを提供いただき、生徒より要望があれば紹介する体制を整えられた。	A	どの取り組みにおいても、生徒の発案が1つ以上生かされた。 町教委より地域の様々な愛好団体・競技団体のリストを生徒の要望がによる紹介する体制は整えられた。	
B	いじめ調査発見アンケートをすでに1回実施した。残りはこれから予定。 SCは6回実施済みである(年12回予定)。	A	いじめ防止グループ討議を年1回、生徒アンケートを年2回、実施した。 1月末でSCを11回実施済み。	
—	PTA理事会・総会は書面会議とし、地区PTA支部総会は中止になった。地域行事の中止や学校行事の延期が相次ぎ、協力でできていない。	B	PTA三役会は行ったが、理事会・総会は書面会議となった。地域の行事はすべて中止となり、延期された学校行事では2回にわたり昼食弁当を提供した。	・コロナの影響で、例年のようなPTA活動ができなかったのは残念だったが、仕方ないことでした。
B	挨拶運動の担当はクラスごとであるが、参加率にバラツキが見られ毎回70%には到達していない。広報・文化体育は延期、校外研修は中止した。	B	挨拶運動の参加は31名(参加率は53%)にとどまり、目標まで到達できなかった。専門部会は広報部のみ実施し、文化体育・校外研修は中止となった。	
B	学校紹介パンフレットは予定通り発行できたが、小国高校ジャーナルは、Grade Match終了後作成予定である。学校ホームページ更新は順調である。	A	学校紹介パンフレット・小国高校ジャーナル「よこね」はそれぞれ7月・12月・3月に発行(見込み)であり、ホームページ更新は随時更新する体制が整った。	・次年度から教員の削減が決まっている中、既にしている個々への負担が多いことがうかがわれる。異動等への支援の要請は継続されるべきであるし、加えて退職教員を出したスクールリポーター的支援者や常駐型の学校支援コーディネーターの配置等を考える必要があるかもしれない。
A	一斉メール登録(生徒・保護者・教職員)により、緊急連絡ができるようになった。安全点検カードの提出率100%を維持し、学習環境の整備に努めている。	A	一斉メール登録(生徒・保護者・教職員)の徹底により、学校からの連絡ができていた。安全点検カードの提出率100%を維持し、学習環境の整備に努めた。	・時間外4時間超過に関しては、教員が少ない中、限られた時間で業務を遂行することは難しいと思いますが、業務分担の見直しに加え、1人1人が業務の担当を行い、必要でない業務(企業でも、今までの流れでやっていた業務が実は必要なかった、代替手段があったということはありません)はやめるという判断で、業務量を少なくしていく方法もあるかと思っていますのでご検討下さい。
B	学校や教員等が担うべき業務についての適正化を図っているが、特定の教員に業務が偏る状態になっている。精検等該当者の再検率は低い。さらなる声掛けが必要である。	B	教員定数削減に伴い、校務分掌や業務分担を工夫する必要がある。	・年休が皆さん一斉に取れたことは良かったと思いますが、リフレッシュできる環境を設けたことは非常に良いと思います。
B	全員が夏季特休完全取得に向けて声をかけた。今後とも年休が取得できる環境を整える。	A	長期休業中等に、職員が一斉に年休が取得できるように環境を整えた。	・先生方の心身の健康がなければ学校成り立ちません。今後もお体には十分に気を付けてお仕事をさってください。
B	超過勤務月45時間にならないように日頃より声をかけたが、数名が超えてしまった。今後とも日々の声掛けと業務の調整を行い、年間380時間を超えないように注視する。	B	超過勤務月45時間にならないように日頃より声をかけたが、数名が超えてしまった。今後とも日々の声掛けと業務の調整を行い、年間380時間を超えないように注視する。	

令和2年度 山形県立小国高等学校 学校評価書(学年) (自己評価・学校関係者評価)

校 訓	「自律・忍耐・向上」
学校教 育目標	「挑め、ともに！」 1 地元に愛着と誇りを持ち、地元を分厚く支援できる人材を育成する。 2 主体的な社会参加を通じて、多様性を認め、協働できる人材を育成する。 3 豊かな心と健全な体を持ち、新たな価値を創造できる人材を育成する。
育 て たい 7 つ の 力	1 認める力 「受け入れる・聞く・メモする」 2 伝える力 「言葉で伝える・文章で伝える・プレゼンする」 3 つながる力 「仲間とつながる・地域とつながる・考えと考えをつなぐ」 4 行動する力 「やってみる・挑戦する・学びに向かう」 5 考える力 「論理的思考力・批判的思考力・課題解決力」 6 見つける力 「課題を見つける・強みを見つける・新たな価値を見つける」 7 絶えず続ける力「粘り強く学習する・あきらめない・感情をコントロール」

重点目 標	学年	重点取組に対する具体的方策	評価指標
1 主 体 的 ・ 協 働 的 な 学 習 を 通 じ た キ ャ リ ア 教 育 の 推 進	1年	○「自分とは何者か」をより深く考えるために、諸活動で多種多様な人と係わるだけでなく、事前事後に思索の機会を設ける。 ○学年行事においても、意図的に自分一人で行き詰る場面、仲間と協働する場面を設けて、「7つの力」の育成を図る。	振り返りの機会が設けられていたか。 必ず協働する場面が設けられていたか。
	2年	○総合的な探究の時間をはじめ、地域での課外活動を支援し、生徒のつながる力・行動する力・見つける力を育む ○学年会で、生徒に関する情報を共有し、より効果的な指導方法を探る。 ○インターンシップにおいて、細やかな計画作成とフィードバックを行い、より充実した体験活動となるよう支援する。また、外部機関が主催する研修会への積極的な参加も促す。 ○生徒の進路希望に応じて面談等を行い、個別学習や体験的な活動を推奨する。 ○学年でも、読書を啓蒙する。	支援の声掛けを積極的にしたか。 学年会で情報共有するだけでなく、指導方法を考えることができたか フィードバックできたか。 面談等を3回以上実施したか 啓蒙活動をしたか。
	3年	○総合(進路)では、地域の方々から協力を頂き、小国町主催の白い森学習等も効果的に活用しながら、進路実現に向けて行動する力を醸成し、進路達成100%を目指して、家庭と地域の期待に応えられるよう努める。 ○各教科のシラバスに掲げられた「7つの力」の具体的な目標を常に意識させ、社会人になる前に今自分に必要な課題を見つけ、解決に向けて努力し、自らも評価することを通して、主体的に学びに向かう姿勢を育む。 ○計画的な個別進路指導を行う中で、素直に指導を受け入れる力をつけ、自己や適性に対するメタ認知の醸成を図り、大学での研究活動参加や企業人面接等も実施していく。 ○家庭学習の励行とともに課題等の提出を徹底させ、進路の実現に向けた基本的な学力と応用力の育成に努め、将来に備えた検定試験や資格取得を積極的に奨励し、挑戦させる。 ○教室にも図書を常設し、朝読書等でも本に触れる機会を増やし、読書を通じて新たな価値を見つけることを促しながら今後の生き方について考えさせる。	白い森学習センターと協働した事業を行ったか。進路を100%達成できたか。 シラバスと「7つの力」について説明したか。生徒自身で学習活動を評価したか。 計画的な個別進路指導を行い、メタ認知の醸成を図ったか。 家庭学習・課題提出について日常的に指導を行ったか。検定試験に挑戦させたか。 教室に図書を常設したか。読書を通じ、今後の生き方を考えさせたか。
2 き め 細 や か な 生 徒 指 導 の 充 実	1年	○自分の心身の状態・傾向に気づき、その対処の仕方について自分なりに考えるよう指導する。 ○自分の「やりたいこと」への挑戦から、自己有用感を醸成し、他者を受容する心の安定と規範意識の涵養を図る。	振り返り起きる現象を生徒に意図的にフィードバックしたか。 自ら発案し行動する様子が見られたか。
	2年	○朝の健康観察等で体調の変化に気を配り、適宜、自己管理能力を育めるような声掛けをする。また、特別な支援が必要な生徒の個性を尊重し、その生徒の学習しやすい方法を考える。 ○場に応じて、どのような行動をとるのが良いか考えさせることで、規範意識を涵養する。 ○活動の目的を周知したうえで、仲間の主体的取り組みを賞賛しあう雰囲気を作る。また、協働することで、自己有用感を持たせる。 ○生徒保健課と連携して、アンケート調査を活かして、認める力・伝える力を育む。	個別面談等を経て、生徒の困り感に応じて対応できたか 自分の行動を振り返る時間を設けたか 諸活動の前に、目的を話したか。 アンケートの結果を次の指導に繋げたか。
	3年	○手帳を活用し、食事や睡眠時間の確保など規則正しい生活習慣を確立し、健康に対する意識を高め自己管理に努めさせることで、社会人として健全な生き方ができるように取り組ませる。 ○母校を愛し、地域とつながろうとする心を育む中で、感情をコントロールし、規律と礼儀を尊ぶ行動を意識させながら規範意識を育てていく。 ○最上級生としての役割と仲間とつながることの大切さを意識させ、リーダーシップと責任感を持って学校行事等に取り組ませることで自己有用感を醸成する。 ○明るく元氣な挨拶を励行し、互いに認め合う豊かな人間関係を構築させるとともに、個別面談等を通して生徒理解と実態把握に努め、問題行動の未然防止を図る。	毎日手帳を活用したか。自己管理に努めさせたか。 地域の一員であること自覚させる語りかけをしたか。規範意識を育てる指導を行ったか。 最上級生としての意識と責任感を持たせる指導を行ったか。 挨拶を励行したか。個別面談を行い、生徒理解に努めたか。問題行動は防止できたか。
3 安 心 ・ 安 全 な 学 校 づ く り	1年	○家庭・地域との協働関係を促進するために、生徒の学びの様子を積極的に広報する。 ○危険を予知し、それを回避するための思考判断ができるよう注意喚起を行う。	学年通信8回以上。 防災訓練に主体的に参加できたか。
	2年	○HRや学年だより、学年部会PTAなどで、家庭や地域に対する感謝の気持ちの表現を積極的に行う。 ○研修旅行に関わり、学年PTAを開催し、協力体制を築く。 ○ICTも活用し、広く広報する。また、校内外の発表の機会を捉えて、生徒の学びを紹介する。 ○「命を守ること」と「使いやすさ」を重視し、事故の防止に努める。	学年通信8回以上。 開催したか。 広報活動を行ったか。 使いやすい環境作りをしたか。
	3年	○三者面談などで相互理解を深め、家庭と連携を図りつつ、地域行事やボランティア活動などに積極的に参加させ、協働体制をより強める。 ○PTA主催模擬試験や進路説明会等、学年PTA活動を通して、自己実現しながら地域に貢献できる人材の育成を目指し、家庭・地域との協力体制を構築していく。 ○学年通信の発行等より、広く家庭・地域との連携に努める。 ○安全管理に努め、自他の命の大切さ、生活上の安心・安全を意識して行動するのはもちろん、地域の一員として「小国高生」として何ができるかを常に考えながら行動するように示唆し続ける。	三者面談を行い、家庭と連携を図ったか。ボランティア参加を励行したか。 学年PTA活動を計画的に行い、家庭・地域との協力体制を構築できたか。 学年通信を発行し、家庭・地域との連携に努めたか。 自他の命を大切に行動を意識させたか。地域の一員としての役割を認識したか。

	中間評価	中間進捗状況	評価	年度未達状況	学校関係者評価 (令和3年2月26日) 自己評価に対する評価
	C	振り返りの機会はある活動のあと、口頭・紙面いずれかでやっている。 協働場面の設定については、結果的にそうになっているだけで、意図的という意味は甘い。	A	振り返りの機会はある活動のあと、口頭・紙面で行った。 白い森未来探究学の小国町探検や小国フェスプレゼンで協働場面を設定することができた。	・コロナ禍の中での制約が多い中、教員および関係する外部人材と協働しつつ工夫を重ね、概ね自己評価通りの成果を示していると言える。
	A	先生方の奔走力を頂戴しながら、積極的に支援している最中である。	A	生徒一人ひとりに、達成感を味わうことができた。	・達成状況を拝見しても教員の皆さまも生徒も充実した活動が出来ていると思います。小規模校のメリットを生かし、生徒一人ひとりの個性を良い方向でこれからは伸ばしていただき、社会に出て活躍できるような人材として育てていただきたく、引き続き宜しくお願い致します。
	B	効果的な指導方法についても、情報を共有していく	A	適宜相談し、多様な指導法について理解を深めた。	
	B	今年度は個別訪問も可能とし、生徒一人ひとりが、希望に応じた体験ができた。	A	紙媒体もICTも活用しながら、クラス内で個人の体験を共有し、仕事や生き方について共感的に理解を深められた。	
	B	「面談」という形式に拘らず、対話ができているが、必要に応じて三者面談も実施する。	A	随時、生徒に声掛けができた。生徒の中には、主体的に学習に取り組めるようになった生徒もいる。	・一人ひとりに寄り添った教育活動が十分にできていると思います。2年生の探究学習の発表はどれも良かったです。全員の発表を聞きたかったし、たくさんの人にも聞いてほしかったです。
	B	新聞も含めて推奨していきたい。	A	支援員による新聞記事解説のお陰もあり、社会問題に興味を持つ生徒が増えた。	
	これから	キャリアアップデザインにおいては、白い森学習支援センターや町・商工会とも協働し、成果を収めることができた。	これから	就職希望者に関しては12月末迄に全員内定を頂けた。4大志望者については2名がこれからチャレンジする	
	A		A		
	A	特別な支援を要する生徒についても、進路指導主事と連携し、就職支援を進めている。	A	特別な支援を要する生徒についても希望する会社で内定を頂けた。支援の流れについて今後情報共有を図っていく。	
	これから		A	朝学習の時間や放課後にも各種検定に向けての学習を励行した。危険物取扱者試験に2名合格することができた。	
	A	今年度は早めにクラス文庫の図書を購入し、利用促進することができた。	A	図書館での貸出も3年生は12月末段階で452冊、1人平均20.5冊と本に触れる機会を多く持つことができた。	
	B	悩みを持ちやすい生徒に、こまめに声をかけ、面談する時間も確保しており、その中で本人の傾向をフィードバックできている。 自ら申し出て、行事の役割を担ったり、講座に参加したりする生徒も多くなった。	A	悩みを持ちやすい生徒に、こまめに声をかけ、面談する時間も確保しその中で本人の傾向をフィードバックできた。 自ら申し出て、行事の役割を担ったり、講座に参加したりする生徒も多くなった。	・コロナ禍の中での制約が多い中、特別活動の縮小もあり、ねらい通りの成果を生み出せなかったようではあるが、その中で教員が工夫し、概ね自己評価通りの成果を示していると言える。
	A	朝の健康観察を有効活用できた。	A	年間通して、朝の健康観察を有効活用できた。研修旅行前健康相談も情報共有として有意義であった。	・生徒を大切にし、よくみて、その都度丁寧に対応できていることに本当に感謝しています。
	B	その都度、個別的・全体的に指導を加えているが、継続していきたい。	A	全体・個別に、振り返る時間を設けた。次年度も、継続していきたい。	
	B	今後の諸行事でも目的意識を持たせていきたい。	A	目的を周知するとともに、事後の振り返りで自分と真中の要否を認めさせた。	
	B	アンケート結果をもとに、生徒に寄り添う指導に繋がっている。	A	アンケート結果をもとに、生徒に寄り添う指導に繋がった。	
	B	手帳は毎日書かせているが、確認する習慣についてはこれから指導していく。	B		
	B	3年生になり、以前に比べ善悪の判断については成長が感じられるが、これからは語りかけを行っていく。	A	新社会人として今後も地域に貢献する意識を持つことの大切さなどについての語りかけを、折に触れ学年全体で行った。	
	A		A	時宜に応じ、3年生としてリーダーシップをとること、全校生の手本となる行動をする意識を持つよう指導を行った。	
	A		A		
	B	学年通信5回発行済み。 防災訓練では主体的な様子が見られた。	A	学年通信5回発行済み。今後3回発行予定。 防災訓練では主体的な様子が見られた。	・コロナ禍の中での制約が多い中、教員および関係する外部人材と協働しつつ工夫を重ね、家庭との連携も構築したことで概ね自己評価通りの成果を示していると言える。
	B	節目節目に学年だよりを発行中。	B	保護者宛て文書を適宜配布したが、更なる工夫が必要。	・一斉メールでのお知らせも効果的だったと思います。
	—	11月に実施予定。	A	複数回実施。	
	B	生徒の活躍を中心に据えて紹介していきたい。	B	一部変更を加えながら、生徒の活躍の場を参加できる場をアナウンスできた。	
	A	新型コロナウイルス感染防止のため、適宜工夫した。	A	使いやすい環境作りにも努めた。	
	A	三者面談を行い、家庭と連携しながら進路活動を進めている最中である。	A	家庭と学校が車の両輪の如く、歩みと方向性を一にできた3年間だったと感じる。家庭のご協力に深く感謝したい。	
	A		A	進路説明会、自動車免許取得説明会(希望者)ともに全家庭がご出席下さったことはありがたかった。	
	A		A	学年通信の発行を含め、常に家庭と連携するよう努め、朝の挨拶運動に関してはほとんどの家庭にご協力コロナ禍の中で、常に健康の自己管理を推奨し、高校生として、地域の一員として何ができるかを考えさせてきた1年だった。	
	A		A		